

22年度紀要

看護学部完成年次を終えて

看護学部長 加藤 光 寶

本学部の完成年度に、紀要第4巻の発行ができますことは、大変嬉しいことです。研究推進委員会の活動と、各教員の研究活動により、発行できることに、格別な思いがいたします。

本学部は、平成19年度に開設され、この4年間は、ひたすらに、教育に向けての活動中心に、多くの時間を必要としました。本学部に限ったことではありませんが、教育の具体的展開に向けて、意見百出・試行錯誤で、多忙を極める4年間でした。

平成19年4月に、第一回生が入学し、教育が動き出し、平成22年度に完成年度を迎えました。3月4日に、第1回目の卒業式が執り行われ、本学部生には、はじめての国家試験が有り、3月25日の合格発表が待たれる年度を迎えています。

ところで、教育と同様に、研究は、教員として欠かせません。本年度は11件のエントリーがあり、昨年度より、件数が伸びました。この4年間は、教育の準備や実施の上で、多くのエネルギーを要し、おおむね研究時間の捻出に苦労されたであろう事が読みとれます。その中で、投稿数が増えてきたことは喜ばしいことです。

平成22年度には、4年生の卒業研究が始まるに当たって、懸案事項であった看護学部研究倫理委員会が発足しました。平成22年9月以降から、看護学部教員・看護学校教員・本学部学生の研究倫理審査は、看護学部研究倫理委員会において行っております。紀要4巻は、研究倫理委員会が発足した年度の初巻号となります。

編集委員会が紀要4巻の発行の準備中の3月11日に、未曾有の東日本大震災（震度7、津波発生）が襲い、ここ壬生の学部棟においても、建物は大きく揺ぎ、柱に掴まらなければ立ってられないほどの長い揺れでした。研究室の床は、書類が散乱し、余震で研究室から飛び出すことの繰り返しでした。緊急避難として、獨協保育園の乳幼児を地域演習室に一時避難で受け入れ、幸い本学部学生は休暇中であり、直接的な被害は避けられました。被災地出身の学生の安否は、教務事務によって確認があり、全員無事であることが確認されました。追い討ちをかけるように、福島原発の原子炉建屋の水素爆発が起こり、想定外と言われる大惨事の最中に紀要4号は、発刊にこぎつけました。

印象濃いこの年度に、すばらしい論文が誕生するであろうことに期待し、発刊の挨拶と致します。

平成23年3月